

答 辞

寒さが残りつつも、次第に春の息吹を感じるようになったこの頃、私たち卒業生一同、今日ここに無事卒業を迎えることが出来ました。

日々実習、座学、そして様々な行事がありました。回想する度に、時間の過ぎ行く速さを実感しております。私たちは少数ではありませんでしたが、大工や庭師を志す仲間として共に切磋琢磨してまいりました。

二年間の実習を振り返ってみますと、大工の技術というものがいかに五感を使って覚えていくものであり、一朝一夕で成果が出るものではないということを、身をもって実感しました。少し怠けると、分かっていたはずの感覚もすぐに忘れてしまい、継続することが大前提だと、基本の大切なことを学んだ気がします。

また、就職先の親方が、設計製図で習った室内透視図を施主との話合いの為に描いて欲しいと、今から言ってお下さり、座学で習ったことも武器にできるのだと感じています。

職藝学院では、年間を通して様々な行事がありました。十月の職藝祭、年末の職藝道具納め、年の始めの職藝仕事始め、そして二年間まとめの卒業制作展などです。そのひとつひとつが、これから社会人となる自分の大きな糧となったと振り返っています。

本日を節目とし、四月より私たちは社会へ出ます。新天地の手仕事の仕事場で、この職藝学院で学んだ多くの

ことを活かしながら、慢心せず、謙虚な姿勢で臨んで参ります。

最後になりますが、本日御列席頂きました御来賓各位、棟梁方、並びに諸先生方の御健勝、御多幸を心よりお祈り致しますと共に、職藝学院の今後益々の御発展を記念しまして、答辞とさせていただきます。

平成二十七年三月二十日

職藝学院 建築職藝科

卒業生代表

内 田 将 英